

アーツカウンシル新潟

令和6年度
文化芸術活動に関する支援事業
取り組みレポート



アーツカウンシル新潟について	2
支援事業について	2
説明・相談会および報告会等実施状況	3

【取り組みレポート】

新プロジェクトへのチャレンジ助成

長唄三味線体験ワークショップ・長唄ミニコンサート	6
ちょっといきなり本読み！in新潟	7
ちょっといきなり本読み！ファシリテーター養成講座	8
ディワリ 光のフェスティバル	9
岩室AIRプロジェクトPRE	9

テーマ別プロジェクト助成

〔文化芸術で子ども・青少年を育成する取り組み〕

あしたの星☆ 2024	11
NIIGATA MUSIC GARDEN	12
HomeShip	13
～新潟出身振付家によるオムニバス公演&キャリアトーク含むワークショップ及び調査～	

〔地域文化の魅力を創造・発信する取り組み〕

Niigata水の記憶プロジェクト+西蒲と大庄屋澤家の移り変わりを深掘りする	14
Studio 奏蔵舎 オープンイベント トリプルビル ダンス公演	15
第5回 秋のときめきコンサート ～唄と踊りの大競演～	16

〔文化芸術と他分野とが連携する取り組み〕

響きと人々「琵琶 道成寺」	17
「唐版・風の又三郎」 演劇公演	18

団体助成

ろう者と聴者が一緒にインプロ（即興演劇）で遊ぶ場の創造	20
-----------------------------	----

【資料編】

令和6年度 文化芸術活動に関する支援事業 募集要領（概要）	22
-------------------------------	----

アーツカウンシル新潟について

新潟市民の文化芸術活動の活性化を図るとともに、持続的な文化創造交流都市の推進体制を構築することを目的に、公益財団法人新潟市芸術文化振興財団事務局内に2016年9月26日に設立されました。

文化芸術をきっかけに新潟のまちや地域が創造的に持続すること、発展していくことをめざして、支援や取り組みを行っています。



支援事業について

アーツカウンシル新潟では、「文化芸術活動に関する支援事業」として、新潟市内で取組まれる文化芸術活動に対して伴走支援・助成を行っています。

「文化芸術活動に関する支援事業」は、初めて文化芸術活動に取り組む団体や、活動実績のある団体が新たに挑戦するプロジェクトで広く開かれた取り組み（「新プロジェクトへのチャレンジ助成」）、＜地域文化の魅力を創造・発信する取り組み＞＜文化芸術で子ども・青少年を育成する取り組み＞＜文化芸術と他分野とが連携する取り組み＞のいずれかのテーマに合致する取り組み（「テーマ別プロジェクト助成」）、団体が抱えている課題や新たな枠組みへのチャレンジに対する取り組み、個人による新たな文化芸術団体の設立などの取り組み（「団体助成」）を公募しました。

この支援事業の特徴は、資金的支援に加え、「伴走支援」を実施している点です。事業を実施されるみなさまと丁寧なコミュニケーションを重ねながら、よりよい事業展開と一緒に模索したり、事業実施に関連する施設や団体等と橋渡しをしたり、取り組みの状況に応じた支援を実施してきました。

令和6年度は32件の応募があり、そのうち13件を採択しました。音楽、演劇、ダンス、美術などの分野の事業が実施されましたが、その特徴は取り組み形式にありました。発表形式の取り組みはもちろん、ワークショップを通じて仲間づくりをする取り組みや、調査を実施し、その結果をふまえた公演・展示を行う取り組み、作品が立ち上がる様子そのものを見せる取り組み、広く出演者を募集し一緒に作品を創作する取り組み、アーティストの滞在をきっかけに地域との関係性を深めていく取り組みなど、事業実施の背景・経緯・目的を色濃く反映した工夫が光るアプローチばかりです。いずれの事業も、事業を実施することの大変さがある中でも、これまで交流のなかった世代・人・団体とつながったり、文化芸術そのものにふれる機会になったりしただけではなく地域や文化芸術に関わる人・環境に対する気づきが生まれていました。

さらに、2025年3月に開催した「採択事業報告会×“にいがた”を“ぶんか”で〇〇する作戦会議」をきっかけに、ジャンルを超えた団体同士の繋がりができました。支援事業を契機に新たなつながりや交流が生まれ、次の取り組みの萌芽が生まれています。アーツカウンシル新潟の支援事業採択団体の採択事業はもちろん、今後の取り組みにもどうぞご期待ください。

最後に、新潟市内で文化芸術活動や文化芸術で新潟市やさまざまな分野が少しずつおもしろくなっていくことをめざす取り組みを企画されているみなさまからの申請、お待ちしております。

説明・相談会および報告会等実施状況

■令和6年度支援事業説明会

一部要件の変更や、助成額の改定を含め、助成制度全体の説明を実施。

実施日程：2024年2月3日（土）13:30～14:30

定員：20名

会場：アーツカウンシル新潟（新潟市中央区西堀前通六番町894番地1 西堀六番館ビル5階※）

■令和6年度支援事業相談会（第1回）

助成制度への申請に関する個別相談を実施。

実施日程：2024年2月17日（土）および18日（日）

定員：各回2団体（1団体1時間）

会場：アーツカウンシル新潟（新潟市中央区西堀前通六番町894番地1 西堀六番館ビル5階※）
またはzoom（オンライン会議システム）

■令和6年度支援事業相談会（第2回）

助成制度への申請に関する個別相談を実施。

実施日程：2024年7月6日（土）、7日（日）、20日（土）、21日（日）

定員：各回2団体（1団体45分）

会場：アーツカウンシル新潟（新潟市中央区西堀前通六番町894番地1 西堀六番館ビル5階※）
またはzoom（オンライン会議システム）

■「令和6年度文化芸術活動に関する支援事業」採択事業報告会 × “にいがた”を“ぶんか”で〇〇する作戦会議 with 採択団体

開催日：2025年3月9日（日） 15:00-17:00（報告会） 17:00-18:00（作戦会議）

会場：旧第四銀行住吉町支店 2階 会議室（新潟市中央区柳島町2丁目10）

作戦会議の案内人（ゲストファシリテーター）：馬場大輔さん（道の駅たがみ 駅長）

主催：アーツカウンシル新潟

共催：新潟市歴史博物館 みなとびあ

令和6年度文化芸術活動に関する支援事業に採択された13団体の皆さまから、実施した取り組みについてお話を伺う報告会を開催。また「新潟が文化でこんなまちになるといいな」や「こんな活動をやってみたら、まちがおもしろくなりそう！」といった夢やイメージを出し合う作戦会議を、採択団体のみなさまに一般参加者の方を加えた総勢24名で実施しました。コラボレーションのアイデアも生まれ、たくさんの方々がつながり、新しく新潟が盛り上がる可能性を感じました。

<https://artscouncil-niigata.jp/blog/7679/>



※アーツカウンシル新潟住所は当時のもの

取り組みレポート

新プロジェクトへのチャレンジ助成

長唄三味線体験ワークショップ・長唄ミニコンサート



団体名
長唄もえぎ会



採択金額
200,000円



会場
クロスパルにいがた 4 階 映像ホール



開催日
2024年10月13日

出演：長唄吉住会連中/長唄もえぎ会会員
参加者数：ワークショップ 22人 コンサート 55人

共催：新潟市中央公民館
後援：新潟市/NPO法人 三味線音楽普及の会



1 三味線体験ワークショップ
2 長唄にまつわるお話

港町新潟に古くから親しまれていた長唄を伝えたい

港町新潟に古くから親しまれていた長唄を、幅広い人たちに伝え、民謡や津軽三味線とは違った魅力があることを知って、興味を持ってもらいたい。また、生の演奏を聴いてもらい、実際に三味線に触れてもらうことで、自分もやってみたいと思ってくれる人が出てきて、会員が増えてくれたらとの思いから、長唄にまつわるお話と実際に三味線に触れる体験ワークショップ、長唄のミニコンサートを企画しました。

好意的な感想をいただいたが、さらに若い世代へも働きかけたい

今回の取り組みのチャレンジとして、広報に力を入れた点が挙げられます。特に、若い世代に働きかけようとInstagramのアカウントを開設し、動画を投稿することは大きな挑戦でした。

イベントは二部制で行い、第一部は、新潟に縁のある「角兵衛」「越後獅子」等、映像を流しながらお話を聞いていただき、長唄の歴史や背景について理解を深めていただく時間を設けました。その後は、希望者の方にステージに上がっていただき、三味線体験をしてもらいました。三味線の構え方、撥の持ち方や当て方、音出しからリズム遊びを、7～8人づつ3回に分けて行い、観客の方には掛け声や手拍子で参加していただきました。第二部では、もえぎ会と吉住会による「松の緑」「黒髪」「靉猿」「常盤の庭」「橋弁慶」の演奏を行いました。来場者には、各曲の解説付き歌詞カードを配りました。

アンケートでは「楽しかった」「有意義だった」など好意的な感想をいただき、今後、長唄のお稽古をやりたいと思ってくれた方も数名いらっしゃいました。観客は40代以上の方たちで、会員を増やすという目的のためにはこの年代の方たちで良かったと思いますが、長唄を広めるためには、もう少し若い世代に来てもらえるようにすることが今後の課題です。アンケートで連絡先を記入いただいた方には、公民館文化祭での体験会参加のお誘いメールを送りました。今後も体験会を企画したり、Instagram投稿を続けていこうと反省会で話し合い、実施後、公民館文化祭の体験会の様子も投稿しました。以前行った中学校への出前授業など、今後も活動を広げていきたいです。

担当POより：

自宅でのお稽古から公民館での活動に移られて数年経ち、会員が増えず高齢化に危機感を持ち始めたもえぎ会さんが、より多くの人に長唄の良さを知ってもらうために挑戦する姿が印象的でした。若い方にも周知し参加いただけるよう、最初は「難しいかも」とおっしゃられた SNSアカウントの開設や発信、Google フォームでの申し込み受付やQRコードの作成・チラシ掲載など、一歩ずつ課題をクリアし、当日はワークショップに22名もの参加がありました。対象としていた年齢層の方に多く来ていただけたことは、さまざまな努力が功を奏した結果ではないでしょうか。長唄の演奏だけでなく、歴史や背景についてのお話を加えたコンサートに好意的な感想も寄せられたそうで、長唄の魅力を知ってくださった方が一緒に活動する仲間になり、皆さんの活動が続いていくことを願っています。

(大浦)

ちょっといきなり本読み！in新潟 ちょっといきなり本読み！ファシリテーター養成講座



団体名
Souer+



採択金額
135,000円



会場
ちょっといきなり本読み！in新潟：SEIRANKAN
ちょっといきなり本読み！ファシリテーター養成講座：
万代市民会館



開催日
ちょっといきなり本読み！in新潟：2024年10月15日/16日
ちょっといきなり本読み！ファシリテーター養成講座：
2024年10月17日

ちょっといきなり本読み！in新潟
出演：演出 岩井秀人（ハイバイ）
参加者数：参加者（本読みをする人） 10人（各日5人）
観覧者（本読みを見届ける人） 38人（2日間合計）

ちょっといきなり本読み！ファシリテーター養成講座
出演：講師 岩井秀人（ハイバイ）
参加者数：受講者 2人 模擬本読み参加者 3人



1 ちょっといきなり本読み！
2 ファシリテーター養成講座

公演以外で演劇にふれる機会を新潟で創出することをめざして

演劇活動に取り組む中で、創作・観劇問わず、「演劇の敷居の高さ・演劇を楽しむ人の母数の少なさ」を痛感しています。公演以外で演劇に触れる機会を創出することを通して「演劇活動の担い手」と「観客」の双方を育て、新潟全体のパフォーマンスアーツの可能性を広げていきたいと考えました。

そこで、「本読み」「稽古」「本番」というすべての工程を2時間で体験し、その場にいる全員が演劇が生まれる瞬間に立ち会える「ちょっといきなり本読み！」を実施しました。また、本読み企画を運営／進行するファシリテーターの養成講座も行い、新潟で演劇の間口を広げるイベントの企画・運営を担うことのできる人材を育て、誰もが気軽に演劇を楽しめる場と演劇に出会うきっかけづくりの醸成をめざしました。

ショーとしてのおもしろさ、体験するおもしろさ

「ちょっといきなり本読み！」生みの親で、劇作家・演出家・俳優のハイバイ 岩井秀人氏を講師に迎え開催しました。本読み・配役・演出を受けた「参加者」からは、勉強になったという声や、緊張していたが楽しむことができた、いろんな人に体験してほしい、といった感想が聞かれました。この取り組みで印象的だったのは、台本が演劇作品として作り上げられる瞬間を見届けた「観覧者」の多くが、「実際の舞台を観てみたい」という感想よりも、「私も声に出してセリフを読みたい」との声を寄せてくださったことです。「観る」ことよりも「やる」ことのハードルの高さを感じていましたが、短時間で、演劇を「やる」ことに興味を持ってくださる方がこんなに集まるとは嬉しい誤算でした。

「ファシリテーター養成講座」では、本読みのファシリテーションノウハウを岩井氏からフィードバックを受けながら実践形式で獲得していきました。市内、県央エリアに在住の方が受講者として参加してくださり、今後「ちょっといきなり本読み！」を開催する際に新潟県内広いエリアでの展開、参加者を募ることが期待できます。

今回の取り組みを通して、参加者・観覧者ともに演劇に取り組むハードルをぐっと下げることができるからこそ、「（演劇を）やってみたい」と思う→実際に演劇を体験してみて「楽しかった」「面白かった」実感を得る→演劇への興味関心が深まり、観客として劇場に舞台を観に行く/または演劇活動の担い手として演劇を作っていく、という循環が生まれるのかもしれないと気づくことができました。

「私もセリフを声に出して読んでみたい」と観覧の方の心を動かすことのできる「ちょっといきなり本読み！」は、演劇の敷居の高さを下げる有効性を再確認できました。この企画を継続していくとともに、継続にあたっては今回の本読みの進み方や観覧者の様子・反応をふまえながら、「ショーとしての面白さ」と「体験する面白さ」を分けて企画していきたいと思います。

担当POより：

「今まで地元劇団が取り組むことが少なかったワークショップ形式の企画」にSouer+さんが挑戦され、演劇を「やる」ことに対する興味が生まれる場に立ち会えたのは、とても嬉しい出来事でした。また、3つの飲食店が合同で運営している複合施設 SEIRANKANで開催されたことも、工夫の一つでした。SEIRANKANスタッフの方の、「飲食店だけではなく、この環境を生かして、様々なイベントを企画・発信するカルチャースポットとして機能したい」という思いをSouer+さんが受け取り、モデルケースになることも期待しながら実施されました。今回の取り組みで、さまざまなやり方、選択肢に私自身も気付くことができました。今後は、本読みの企画特性や会場選定効果、「見せる本読み」と「体験する本読み」それぞれの特徴を鑑み、開催意図と融合する方法を模索しながら展開されることを期待しています。

(高橋)

ディワリ 光のフェスティバル



団体名
えちごインドサンガム



採択金額
200,000円



会場
旧第四銀行住吉町支店



開催日
2024年11月3日

出演：堤菜穂/羽倉美和/福井智美/石田紫織/斉藤勇/片岡奈々/荒井和真
参加者数：110人

後援：新潟市/新潟市国際交流協会
応援：インド大使館
協力：新潟インド文化交流会



1 語り部によるディワリ祭りのお話

2 インド古典舞踊と古典音楽の上演

3 会場の様子

異文化を知ることで多様な価値観へ興味を広げるきっかけを作りたい

日頃よりインド文化から派生した古典音楽や古典舞踊に親しんでいるメンバーが、インド国内で宗教を超えて祝われるディワリというお祭りについて掘り下げ、参加者とお祝いするイベントを通して新潟の人々のインド文化や宗教感への理解を深め、自身の文化との違いや共通点、ルーツを発見し、多様な価値観への興味を広げるきっかけを作りたいと考え、インドの風習や文化について語り部を交えた古典音楽と古典舞踊の公演を企画しました。

新たな文化への興味喚起・交流の場が実現できたので、今後も体験の機会を提供したい

公演では「善が悪に勝ったことをお祝いする」という主旨のディワリ祭りになぞらえた内容を、語り部を交えてインド古典音楽と古典舞踊で表現し、異文化だとしても人類共通の平和と自己成長への願いがあることをメッセージとして伝えました。インドのお祭りを体験してもらえるように会場の装飾に工夫を凝らし、インドのスナックや飲み物の販売ブースを設け、食文化を体験してもらえる機会も作りました。舞台鑑賞と軽食販売により、新潟在住のインドをはじめとする外国にルーツを持つ方々と新潟市民との貴重なふれあいの場を提供できたと思います。当初は、取り組みの一環として参加者全員に食の体験もしてもらう予定でしたが、予算の関係で実施できなかったことは反省点として挙げられます。

ディワリというインドの国民的文化があることを、今回のイベントを通じて初めて知ったという方が多かったようです。また、舞踊と音楽の成り立ちを紹介したこともあり、新たな文化への興味が広がったという声や、民族衣装のサリーを着てみたいという声もありました。新潟在住の外国籍の方への声かけはあまり時間が割けず、思ったほど参加いただくことはできませんでしたが、当日は6名の来場があり、舞台の最後には彼らも交えてインド映画の曲に合わせて踊ったり、インドの食について日本の方が質問したり、一緒に記念撮影をするなど、参加者同士が交流する姿も見られました。

今後は、インド舞踊や音楽の舞台、食事や文化を通して、新潟の人々が異文化への理解を深める体験をできるよう、現地の方々との交流の場や、文化体験ができるイベント・ワークショップを継続的に企画したいと考えています。インド文化や人々との交流を通して、新潟の人々の生きる糧となったり、多様な価値観の中から自身の生き方を見つめ直すようなきっかけを提供していきたいです。

担当POより：

新潟ではあまり観る機会のない多種多様な地方のインド古典舞踊と古典音楽の上演に、インドのお祭りや風習についての語り部が加えられた希少な公演でした。鑑賞された方々の興味関心がさまざまに広がったことは、食も含めていくつかの要素を取り入れた公演内容による効果ではないかと感じました。参加された皆さんにとって、自身の文化との違いを発見し、多様な価値観への理解を深めるきっかけになったのではないのでしょうか。

(大浦)

岩室AIRプロジェクトPRE



1 ワークショップの様子
(1月11日)

2 キービジュアル



団体名
岩室AIRプロジェクト実行委員会



採択金額
200,000円



会場
岩室シェアハウスとも家



開催日
滞在アーティスト公募期間：2024年10月14日～11月10日
アーティスト滞在期間：2025年1月8日～18日
ワークショップ実施日：2025年1月11日/15日

出演：滞在者 そこに居るために（宮本悠加/三浦雨林）
参加者数：WS参加者 17人（2日間合計）

協力：岩室シェアハウスとも家/ミヤ+

来訪者と地域が継続的な関係性をつくる

岩室地区でシェアハウスを運営する中で、地域のさまざまな方とお話をしてきました。その中で、これまで岩室地域で展開されてきたアート活動などの動きから、「一過性ではない継続的な関係性の構築」と、地域における創造環境の創出を通して、地域内外・世代・職業を超えた連帯を岩室温泉地域につくる必要があると感じていました。そこで、地域の魅力を最大限に引き出し、アートと地域社会の新たな可能性を開拓していくことをめざして、舞台芸術分野の若手アーティストが岩室地域に滞在し、稽古場公開と公開ワークショップを行うアーティスト・イン・レジデンス（AIR）の取り組みとして、今年度はプレと題して実施しました。

岩室AIRの特徴を探る1年目

今回は、10組の応募があり、その中からダンサーの宮本悠加さんと演出家の三浦雨林さんによるグループ＜そこに居るために＞さんに滞在いただきました。滞在にあたっては、ホスト自ら積極的にアテンドを行い、人的なネットワークの支援に努めました。滞在アーティストからは、他のAIRの滞在経験と比較し、「他のAIRだと地域にとって外（よそ）から来た人・旅人として認識される。だけど、岩室AIRでは、地域住民とのコミュニケーションのはじめに、『〇丁目のとも家から来ました。』と言える。言わばアドレス（住所や所属）を持った状態で会話を始められる。すると一気に心を開いてくれて、コミュニケーションが目覚ましく円滑になる。勝手に訪れたよそ者ではなく、住みながら岩室温泉に繰り出している人『一過性の住人』となれた。」という声を得られました。このことは他のAIRと比較したときの本事業の強み、特色ともいえると感じました。

次年度以降の展開を地域の事業者と相談し構想を膨らませる、発展させる準備期間としても本事業を位置づけ、アーカイブにも力を入れました。特にアーティストが滞在した記録としてWebメディアnoteにて滞在記を公開しています。また、アーティスト滞在期間中に実施したWSには地元新聞社からの取材もあり、記事をみた地域の温泉旅館さんから、「面白いこと始めましたね、協力出来ることがあるかもしれないので、何かあったら声をかけて下さい。」と連絡があり、地域の事業者との連携の兆しが見え始めています。

一方で、期間中に開催した滞在アーティストによるWSの参加者には地域住民が少なかったです。周知の困難さを実感したことから、興味を持ってもらえるような入り口としてテーマを設定し、地域住民とつなげていくことを次回以降の課題としています。

次年度以降は、より多くの地域事業者を巻き込むこと、職業体験を通してアーティストと地元民がより深く互いを知る機会を創出すること、地域社会の生活に最も近いAIRとして当プログラムを確立すること、ゲスト＆ホスト共創型のイベント「岩室探究キャンプ」の実施などを通して、地域内外・世代・職業を超えたネットワークと連帯を生み、個々人が自分なりの探求活動を自由に取り組める風土の醸成を目指していきたいです。

担当POより：

岩室エリアでアーティスト・イン・レジデンス（以下、AIR）を展開していくことをめざしてトライアル的に実施し、岩室AIRの特徴や課題の洗い出しに取り組みました。今回工夫された点の一つとして、滞在アーティストからAIRの運営を含めてフィードバックいただくように設計されたことがあります。フィードバックのコメントからは、岩室エリアでAIRを実施するにあたりポイントとなる部分が明確になったのではないのでしょうか。地域の方々との連携が進み、地域に根付いたAIRになることを願っています。（高橋）

テーマ別プロジェクト助成

- 文化芸術で子ども・青少年を育成する取り組み
- 地域文化の魅力を創造・発信する取り組み
- 文化芸術と他分野とが連携する取り組み

[文化芸術で子ども・青少年を育成する取り組み]

あしたの星☆ 2024



1 ショートムービー制作チームの挨拶
2 映画関係者トークセッション



団体名
新潟障害文化地域推進機構



採択金額
500,000円



会場
新潟市東区ブラザ ホール



開催日
2024年9月15日

出演：新潟障害文化地域推進機構/新潟大学 教育学部 映像制作チーム/舟橋一男/舟橋瑞枝/舟橋一枝/藤井稔
参加者数：120人

後援：新潟市/新潟市教育委員会

障がいについて理解の輪を広げたい

障がいのある人もない人も文化芸術を通して表現できる場として8回目の開催になりますが、まだまだ障がいがある世界と捉えられている現実があり、「自分とは関係ないから」という人たちに少しでも理解の輪を広げたいという思いがあります。これからの社会を支えていく若者が、障がいのある方とその家族、関わりを持つ地域の人たちと接することで、理解を深く伝えていける活動にしたいと考え、大学生による障がいをテーマにしたショートムービーの制作・上映を企画しました。併せて障害当事者と家族の姿を捉えたドキュメンタリー映画の上映と、ご本人たちにお話をうかがうことで、さらなる理解の促進をめざす取り組みです。

困難に直面しながらも取材・撮影を続け完成した『voice』が、様々な声を聞くきっかけに

今回のショートムービー制作は大学生を主体に、できるだけ彼らのやりたいように作ってもらおうと考え、団体メンバーは見守ることに注力しました。取材や撮影に何度も出向きましたが、使えない映像が集まり、学生たちは「人に観てもらおう作品にする難しさ」にぶつかり、プロのレクチャーを受けながら、その後も取材や撮影、編集を続けました。途中から不登校の中学生が編集作業に加わり、画像にテロップを入れる仕事を担ってくれました。徐々に中学生が元気になっていく様子を目の当たりにし、映画作りを通して人による影響を与えられることを実感し、嬉しく思う場面もありました。

当日はショートムービー『voice～あなたの声がききたい～』と、ドキュメンタリー映画『やったぜ！じいちゃん』の上映後、それぞれ関係者の挨拶やトークセッションの時間を設けました。来場者が120人と多くなかったことは残念でしたが、観覧した方から「『voice』の上映会をやりたい」という声があり、その後、新潟市の南区・東区と佐渡市で上映会が開催され、3会場で延べ300人余りの方に観ていただくことができました。障がいのある方や、中学生から70代の幅広い年齢層の方に観てもらえたことは大きな成果だと思っています。また、これらの上映会で、上映後に「あなたたちの声がききたい」と問うたところ、約60人の方から障がいについての思いを聞かせてもらうことができました。今回気づいたことは、この映画は「障がい者理解のきっかけになる」ということ。シャイな新潟人は、普段なかなか声をあげない人が多いですが、映画を観た後は問いかけに答えてくれる。何とも不思議な感じがしました。

引き続き、学校、コミュニティ協議会、福祉団体などから映画上映のオファーをいただいています。新潟が「人に優しいまち」になるよう、これからも映画の上映を続けていきたいです。

担当POより：

今までの「あしたの星」でも大学生が運営に関わっていましたが、今回は学生が主体となってショートムービーを制作する、青少年の育成に主眼を置いた取り組みでした。初めての取材や撮影は苦労も多かったようですが、取材相手には事前に質問を伝えず生の声を拾うよう努めるなど、学生が自身で考え工夫しながら撮影を進めていったそうです。編集会議では、団体メンバーは学生から質問があればアドバイスを伝えていましたが、一貫して学生主導で進めていく姿勢が印象的でした。当初、出来上がった作品は「あしたの星」で上映された後YouTubeで公開するだけの予定でしたが、反響が大きく、上映会のオファーが続き、以降も多くの方に観ていただける作品が出来上がったことは大きな成果だと思っています。映画をきっかけに、鑑賞した人が障がいについて考え、理解を深めていくことで、多様な人々がともに暮らしやすい社会になっていくことを期待しています。

(大浦)

NIIGATA MUSIC GARDEN



1 公募バンドの演奏
2 ドラム体験ブース



団体名
NIIGATA MUSIC LABORATORY



採択金額
390,000円



会場
新潟駅南口中央広場



開催日
2024年11月10日

出演：公募によって集まった10代のバンド9団体
参加者数：1,000人

共催：Smile軽音楽部
協賛：あぼろん新潟駅南店
後援：NST新潟総合テレビ

新潟の子どもたちが音楽活動が続ける場づくりをめざして

NIIGATA MUSIC LABORATORYは、音楽・アート活動のイベントオーガナイザーとして長年社会貢献事業を展開してきた中で、新潟は音楽業界「全体」での関わり合いが薄く、ライブ環境や音楽教室などそれぞれが独自の文化圏を持っている傾向にあることや、子どもたちが音楽を一から体験する機会や継続するための選択肢・環境が少ない状況にあると気づきました。そこで、地域情報の集約や街を繋ぐ「ハブ」となることに加え、学校部活動の地域移行問題の解決と、市内の芸術文化普及促進の双方に資する取り組みとして、中高生が地域で音楽や文化活動を表現する「NIIGATA MUSIC GARDEN」を開催しました。

表現の場の選択肢を提案

公募で集まった中高校生による軽音部などのバンド発表9組に加え、Instagramなどで注目されるプロのドラマーによるパフォーマンスとドラム体験ワークショップを実施しました。出演した中高校生からは、「軽音部はそもそも学校で練習できる場がすでにない」「地域で音楽ステージイベントがあることで区域を超えた出会いや協力体制が組めるので、いろいろな可能性や出会いがあって嬉しかった」といった声が聞かれたほか、「駅前や地域でライブするための方法や注意点を知りたい」という自発的な活動につながる事が期待される質問も寄せられました。

「NIIGATA MUSIC GARDEN」の開催に平行して、駅南エリアで開催した地域循環イベント「NEW HOPE fes.」との連動により、中高校生と地域住民が交流できる機会を設けました。

取り組みを通して、中高校生には、表現の場として「地域という選択肢があるんだ」と感じてもらうことができ、学校部活動の地域移行を知らない方々にその動きを知る機会を提供できました。

「NIIGATA MUSIC GARDEN」は、ステージなどを設置せず、新潟駅南口中央広場の花壇や既にある魅力を活用して会場をレイアウトしました。いつもある街の風景が、工夫一つで大きく変わるという事を若者や、道ゆく人々が感じてくれたのだと思います。今後も、街の公共空間の利活用などを通して敷居を低くするとともに、観覧はもちろん「体験」「体感」する場をつくっていきたいです。

担当POより：

部活動の地域移行を起点とした中学・高校生による表現活動の場の確保に向けた取り組みでした。出演可能枠上限数に達する団体から応募があり、「出演したかった」という声も聞かれたそうで、中学・高校生から寄せられた関心の高さが伺えます。当日は、自団体の演奏終了後も他のバンドの演奏を盛り上げる姿が見られただけでなく、バンド同士での会話が生まれているようでした。また、ドラム体験ブースには、小学生くらいの子どもや、60代以上の大人も参加されており、様々な方が聞くだけではなく体験する機会になっていたと感じました。(高橋)

HomeShip

～新潟出身振付家によるオムニバス公演&キャリアトーク含むワークショップ及び調査～



1 キャリアトークの様子(井田氏)
2 ワークショップの様子(田村氏)



団体名
ダすけ



採択金額
500,000円



会場
公演・WS：旧第四銀行住吉町支店



開催日
事前調査（インターネットアンケート）：
2024年6月21日～7月26日
事前調査（インタビュー）：
2024年8月21日/22日/24日/26日
事前調査結果公開：2024年11月29日
公演・WS：2024年12月26日/27日
アーカイブ動画公開：2025年2月

出演：公演 G-ray（小澤早嬉、鈴木亮祐、茂木孝介）/
田村興一郎/山田暎/
宮悠介
WS・キャリアトーク 井田亜彩実（12月26日）
田村興一郎（12月27日）

参加者数：190人（公演・WS・キャリアトーク合計）
後援：新潟市/新潟市教育委員会

ダンスを続ける方法、ダンスを通じたキャリアを知りたい・伝えたい

<ダすけ>は、ダンスが盛んな新潟で高校時代を過ごし、創作ダンスの全国大会で受賞を重ねている筑波大学ダンス部で活動し、現在もダンサーや振付家としてダンスと向き合っています。その中で、多様なダンスにふれることや、ダンスを通じたキャリアのモデルケースを知ることの重要性を感じ、多様な身体表現によるダンス作品を紹介することに加え、新潟でダンスに取り組む高校・大学生とその保護者がさまざまなキャリアを知る機会をつくることをめざしてこの取り組みを企画しました。

知りたかったを伝える、今ダンスと向き合う姿を見せる

本事業では、新潟出身の20代振付家3名によるダンス作品の上演と、新潟出身30代の振付家2名によるキャリアトークとワークショップを開催しました。公演・キャリアトーク・ワークショップ実施にあたり、現在ダンスに取り組む新潟県内外の学生を対象に、ダンスに対する意識に関する事前調査（インターネットアンケートとインタビュー調査）を行いました。調査対象者とダすけメンバーが近い世代であることから、インタビュー調査では高校・大学生のリアルな声を聞き出せたと感じています。キャリアトークでは調査結果をふまえて展開し、主なターゲットである高校・大学生にとってキャリアパスのモデルとなる30代の振付家による経験談や葛藤、活動方法を共有しました。ワークショップでは、高校生や大学生の参加を中心に10代から20代の参加に加え、ワークショップを見学していたワークショップ講師の関係者のお子さんの飛び入り参加・受け入れがあったなど、ダンスを通じた繋がりを感じるシーンもありました。来場者からは、「単純に作品発表の公演のみだと正直物足りないかなと思うが、トークやワークショップなど総じて見えてくるものがあると思った」といった声や、「今まで知りたくても知る機会の無かったことをこのキャリアトークを通して深く学ぶことが出来た」という感想が聞かれ、企画背景や趣旨が伝わったと思います。また、「久しぶりに創作ダンスを観たので、表現の幅広さに驚かされた」という感想もあり、オムニバス公演で多様な表現を紹介できたことも有意義だったと感じました。ゲストの井田氏・田村氏から、「なかなか新潟にダンスで帰ってくる機会が無かったけれど、今回の企画をきっかけに帰ってくることができた・自分の経験を還元することができた」といったご感想をいただきました。新潟出身振付家のキャリアパスを取り上げることが、高校生・大学生にとって参考になるだけではなく、ゲストの方にとっても、自身の現在地を新潟の人に知ってもらう機会になったのだと気づきました。今後も「新潟県内でダンスに取り組む高校生・大学生を対象として、舞踊にまつわる多様な表現と多様なキャリアを紹介する」という目的をより実現する企画立案・運営を行っていきたいです。

担当POより：

<ダすけ>のみなさんがご自身の経験から課題を抽出し、今新潟でダンスに取り組んでいる高校生から大学院生までの方々の意識を把握し、照らし合わせながら事業を構成されたことがとても印象に残っています。私自身、調査から公演までを一緒に取り組ませていただいたことで、ダンスと向き合う充実感、折り合いをつけていくこと、将来に向けた気持ちの一部をリアルに感じる事ができました。今回は調査を含めて大がかりな事業設計に挑戦されました。この取り組みで収集することができた生の声をベースに、新潟でダンスを始めたメンバーで構成される<ダすけ>であることを活かして、新潟でダンスに取り組む高校生・大学生にとって身近な伴走者となるような事業を選択し、練り上げ、展開していくことを期待しています。(高橋)

Niigata水の記憶プロジェクト+ 西蒲と大庄屋澤家の移り変わりを深掘りする



1 作家と市民の作品展示
2・3 ワークショップの様子



団体名

Niigata水の記憶プロジェクト+の会



採択金額

500,000円



会場

澤将監の館



開催日

展示 2024年9月25日 - 11月17日
ワークショップ 9月14日/10月26日

招聘作家：酒百宏一

参加者数：展示 のべ639人 ワークショップ 16人(2回合計)

共催：新潟市（西蒲区地域総務課）

運営協力：澤将監の館/中之口先人館

新潟の水の記憶を写し取り、地域の再発見へ繋げたい

「水と土の芸術祭 2009」へ参加し、フロッタージュという技法で新潟の水の記憶を写し取り、作品制作と市民向けワークショップを行った酒百宏一氏は、芸術祭後も市民有志と協働で展示や巡検、水の記憶マップの制作などを続けています。この水と土の宝物を再構築・公開することで、再び地域の魅力や課題、土地の記憶について思いを巡らせ、地域のみならず新潟の来し方行く末を考えるきっかけを作れたらと、今回は整備・開発が進み土地の記憶が見えにくくなった西蒲区中之口エリアにある澤将監の館を中心に、地域を再発見していただくことを目的に、作家と市民との協働によるプロジェクトを企画しました。

地元の人々から引き出された記憶を地域で共有し、新潟の魅力発信を続けたい

この取り組みは、地域を再発見してもらうことをめざし、新潟の水の記憶にまつわる作品や道具、写真や解説など、さまざまな展示が行われました。作品は、作家自身の従来の作品と、2009年の市民向けワークショップで生まれた作品に加え、作家が今回あらたに地域リサーチを行い制作した作品と、展覧会前と会期中に行われたワークショップにより市民の方が制作した作品も展示しました。その他に、2015年より市民有志が続けている作品制作場所の巡検記録、地域で使われていた農具・民具や地域の記憶を写した写真・資料、開拓された場所の現在の様子の写真・資料などを展示したことで、鑑賞者がよりその土地を知ることになりました。展示以外では、作家による参加型アートプロジェクトの解説やギャラリーツアー、来場者が地域で使われていた農具を写し取るフロッタージュ（作品制作）ワークショップも実施しました。また、地域の団体等と連携し、共催プログラムとしてトークイベントや伝統芸能「鈴おどり」の披露、地域の歴史をひも解くまち歩きも行いました。

プロジェクトを通じて、地元の方々からも地域の歴史や文化に関する記憶が引き出され、作品とあわせて公開・発信することができました。情報は共催したまち歩き団体や自治会と共有し、活用していただく予定です。今回は、運営・作家・学校等の都合を合わせることが難しく、ワークショップの参加者数を伸ばすことができませんでしたが、地域の小学生が総合学習の一環で来場し、見学時に興味を持ってもらえたようです。

本プロジェクトは、新潟市全域の水の記憶の記録であることから、市内の地域活動に取り組む方々とともに地域の魅力を発見し、磨き、発信する活動を行っていきたいと考えています。巡検を継続し、地域の方への聞き取りや調査、移り変わりの記録・公開を続け、作家の新潟へのまなざしや巡検からの視点を、地域で活動する方や郷土史の研究をしている方と共有し、賛同・協力者を少しずつ増やし、地域文化の点と点を美術で結ぶことで、新潟の魅力を発信する活動を継続していきたいと思います。

担当POより：

水や土地の記憶を掘り起こすことで、地元の方の記憶も呼び起こされ、まちの人々が活用できる地域の宝が得られたことは、この取り組みの大きな成果ではないかと考えられます。水により豊かさや苦難の両方がもたらされた土地は新潟にまだまだ多くあります。このたびの西蒲地域でのプロジェクトが、今後も各地域で展開され、新潟の魅力を発見・発信いただくことで、さまざまな地域が活性化していくことを願っています。（大浦）

Studio 奏蔵舎 オープンイベント トリプルビル ダンス公演



1 公募ダンサーとまち歩きをして創作した作品「湊に眠る者たち」
2 まち歩きの様子、3「湊に眠る者たち」クリエーション中



団体名

町屋本町アートプロジェクト



採択金額

500,000円



会場

Studio奏蔵舎



開催日

まち歩き：2024年9月14日
公募ダンサーとのクリエーション：
2024年9月15日～10月11日（計14回実施）
招聘ダンサー滞在・クリエーション：
2024年10月9日～10月14日
公演：2024年10月12日/13日

出演：大和シティー・バレエ(YCB)/大和シティー・ダンス(YCD)/
公募ダンサー6名/池ヶ谷奏

参加者数：89人（3回公演合計）

後援：新潟市

眠っていた蔵を地域と文化が交流する拠点に

新潟市中央区本町12番町に空き家となっていた築100年以上の町屋と蔵が残っていたことが2023年にわかりました。町屋や蔵の存在は地域の方にもあまり知られていませんでしたが、地域住民と建物に滞在・活用する人との交流の場として有効活用したいと考え、プロジェクトを立ち上げました。地域と文化・アートがより身近なものになることをめざし、地域の方への周知はもちろん、新潟市内外の方に興味を持ってもらい、下町（しもまち）エリアを訪れてもらうきっかけづくりとして、蔵のオープニングイベントを開催しました。

地域に気付くきっかけ、表現・交流の場として

取り組みは「ダンス歴を問わずにダンサーを募集し、まち歩きを経て作品を創作・上演」「招聘カンパニーの公演」「招聘振付家・ダンサーが町屋・蔵で作品を滞在制作・上演」という3つの要素で構成しました。

「ダンス歴を問わずにダンサーを募集し、まち歩きを経て作品をクリエーション、上演する」では、町屋本町アートプロジェクト代表の池ヶ谷奏と公募で集まった6人のダンサーが、下町エリアをまち歩きし、その体験や印象深いモチーフを使って動きを模索し「湊に眠る者たち」という作品を創作しました。

また、「招聘カンパニーの公演」と「招聘振付家・ダンサーが町屋・蔵で作品を滞在制作・上演」では、神奈川から大和シティー・バレエ(YCB)、大和シティー・ダンス(YCD)の振付家1名とダンサー5名を招き、YCB・YCDのレパトリー作品の「三人姉妹」とを上演した他、YCDディレクターの竹内春美氏が2日間の滞在中に創作した「Helpless people」を発表しました。

「湊に眠る者たち」の公募ダンサーからは、「ダンスは嫌いだったけれど、楽しかった」「社会人になって踊る機会や発表の場が減り、ダンスから離れていたが、今回久しぶりに挑戦できた」という感想が聞けました。また、新潟在住でも下町エリアを詳しく知る出演者はおらず、まち歩きでは新しい発見がたくさんあり、この地域の文化や歴史に気付くことができました。

また、県外のアーティストが滞在しながら創作活動ができる1つのモデルを試すことができました。招聘振付家・ダンサーからは、「スタジオのすぐ隣りに滞在してクリエーションに集中できたことは貴重な経験」「商店街の昔ながらのお惣菜屋さんが気に入った」「銭湯でおすすめのお店が聞けた」「新潟に住む公募出演者のエネルギーが刺激になった」などの感想が聞けました。

今後もこのような公演やレジデンス創作などを通じて地域の魅力を発信するとともに、地域の人々がもっと出入りしやすい導線や企画を作り、使われていなかった身近な場所がアートによって再生することに感心を持ってもらい、地域とアートが結びつくきっかけを増やしていきたいと考えています。

担当POより：

「湊に眠る者たち」の創作では、「まち歩きでこんなのがあったよね」と言いながら全員のアイディアを参加者同士で磨き上げながらつなぎ合わせていたことが印象的でした。公募出演者の感想からこの取り組みが、地域を知るきっかけになったとともに、社会人以降もダンスを継続する機会になったこと、ゲスト振付家・ダンサーの感想からは、地域の方との交流が生まれていたことがわかります。地域に古くからあった旧居住空間や蔵での滞在・作品創作・上演は、劇場のような上演に最適な環境が揃っている場所にはない不自由さがある一方で、生活と文化芸術が地続きになっている環境だからこそ、地域に対する気づきや交流が生まれやすい場所なのではないかと感じました。今後、このスタジオで作品が創作されることはもちろん、スタジオでの取り組みをきっかけに地域と文化芸術がつながり、エリア全体が盛り上がっていくことを期待しています。（高橋）

第5回 秋のときめきコンサート ～唄と踊りの大競演～



団体名
こはく会



採択金額
230,000円（2年度目 助成率 1/2）



会場
江南区文化会館 音楽演劇ホール



開催日
2024年11月3日

出演：こはく会/篠笛アンサンブル友の風/民謡扇柳会/民謡友の会/春龍の会/中島大月樽っ子クラブ/民謡キッズBEASTY/子ども民謡教室SWAN/新潟青陵高校 ほか

参加者数：190人

後援：新潟市/新潟日報社



- 1 三味線や樽太鼓の小学生と民謡団体による共演
- 2 子どもたちによる花笠音頭

待っていても民謡の認知度は上がらない。攻めの姿勢で広めていく。

民謡の担い手が高齢化しており、次世代につなぐ活動を今しなければ、民謡界の衰退はさらに加速し地域の文化が消滅する危機が迫っているため、年に1度のコンサート当日だけでなく、事前・事後活動を通じて民謡の楽しさを子どもや若者たちに伝え、裾野を広げる取り組みを始めました。令和3年度より開催されているコンサートでは、4年度に小学生の和楽器体験、5年度に外国籍の方の民謡体験を実施しましたが、そもそも民謡の認知度が低く、声かけをして待っていても参加者を集めることが難しいと感じたため、今年度は「呼びかけをしてこちらから出向く」という攻めの姿勢で積極的に民謡を広める取り組みを企画しました。

若い方の来場が増え、子どもから民謡を踊りたいという声も

子どもや若者にも楽しんでもらえるコンサートを通して民謡の裾野を広げようと、令和4年度より助成を受けて実施している取り組みです。4年度の和楽器体験で「三味線を続けて習いたい」という声があり、それを受けて立ち上げた『こども民謡教室 SWAN』で練習を重ねた小学生が、5年度のステージで演奏を披露した一方、外国籍の方に踊っていただく企画は参加希望者があまり集まらないという結果に終わり、さまざまな試みを経て、今回は学校や教室にこちらから出向いて民謡の演奏や踊り指導をし、学生たちもコンサートへ参加してもらえるような企画を考えました。

当日は、4年度から練習を続けている小学生が地方（じかた）として大人に交じって三味線を演奏したり、踊り指導を受けた高校生が民謡団体とともに「藻たぐり甚句」「新潟甚句」「佐渡おけさ」をステージで踊りました。また、キッズダンスの子どもたちは手作りの笠を手「花笠音頭」を踊ったり、小学生の樽太鼓演奏に合わせてダンスを披露しました。会場には昨年度より若い方の入場が多く見られ、踊りをやってみたいと終演後に申し出があった小学生と高校生の姉妹が、コンサートをきっかけに踊りの練習に参加し始めるなど、少しずつ民謡に興味を持つ子どもや若い方が増えてきています。これは、コンサートの内容もさることながら、団体のホームページを開設したり、noteやInstagramで発信するなど、普段民謡に触れる機会の少ない方たちに対して情報を届けるための工夫を重ねてきたことも功を奏しているのではと思います。

学生やキッズダンスの子どもたちへの踊り指導の際、興味を持つ生徒がいれば、歌や楽器演奏の指導もする予定でしたが、希望者はいませんでした。また、高校生の他に、大学生へも踊り指導ができたかと考えていましたが、希望者がいなかったため実施できなかった点は残念でした。来年度は、若者の民謡への興味喚起や外国人への民謡紹介の取り組みも継続・強化しながら、あまり知られていない地域の民謡を取り上げ、地元の方と練習を重ねて一緒にステージで披露できるようにしたいと考えています。年齢や国籍問わず、みんなで民謡を楽しみ、裾野を広げていく活動を続けていきたいと思っています。

担当POより：

令和4年度から、民謡の裾野を広げるためにさまざまな工夫を重ねてこられた姿が印象に残っています。こはく会さんがめざした結果が得られないこともありましたが、それでも毎年、皆さんでアイデアを出して挑戦し続けたおかげで、若い観客の方が増え、三味線や踊りを習い始めたり、練習を続けて出演する子どもたちも少しずつ増えてきました。今まで民謡に触れてこなかった子どもや学生が、実際に踊ってみることで楽しさを感じ、次年度のコンサートへ続けて出演したいと希望してくれたことは大きな成果だと思います。幅広い年代の方が民謡を楽しみ、受け継がれていくことを期待しています。（大浦）

響きと人々「琵琶 道成寺」



団体名
巫舞台



採択金額
500,000円



会場
新潟県民会館 小ホール



開催日
2024年5月25日



- 1 琵琶体験ブース
- 2 公演

出演：琵琶奏者 古澤史水/巫美麗
映像出演 西橋八郎兵衛

参加者数：140人

後援：新潟市

同じ空間で、同じものを、それぞれの楽しみ方で

琵琶語りの現代の在り方や楽しみ方を新たに創出し、伝統芸能として過去の演奏を真似るだけでなく、「生きた芸能」として認知、普及していくことをめざした活動を進めています。その活動の中で、福岡市視覚障害者協会から琵琶の講師依頼があったことをきっかけに、視覚障害者の方に向けてどのような構成をするとよいのかを検討しました。この経験をもとに、障がいの有無に関わらず、同じ公演をそれぞれの楽しみ方で鑑賞できる機会を設けたいと思い、この公演を企画しました。

この工夫で、みんなが楽しめる

公演開催にあたり、琵琶の歴史や楽器について知っていただくために、演奏曲目の合間で説明を挟んだ他、演奏する曲の世界観をより理解しやすくするために映像作品を取り入れました。ホワイエでは、ご来場の方々に琵琶体験をしていただくブースをつくりました。当日は、多くの方がブースで体験してくださり、演奏を聴くだけでなく、実際に楽器に触れ、音をならしてみる体験を通して琵琶という楽器を感じていただくことができました。

また、視覚障害の方への取り組みとして、視覚障害者福祉協会の方に企画段階から相談し、ご助言をいただきました。当初、点字パンフレットの製作を考えていましたが、視覚障害者福祉協会の方のお話の中で、点字を苦手とする方がいらっしゃることを知り、点字パンフレットではなく、スマホ等の読取機能を使って読んでいただけるようにデザインを工夫し、音声ガイド用のQRコードを記載したパンフレットを作成しました。また、奏者による琵琶の説明や今回の会の趣旨を解説する時間を設ける等、「内容を伝える」ことを重視しました。それらの工夫や取り組みについてアンケートから、演奏、映像作品、体験ブースも概ね好評の声が寄せられ、副次的になりますが、視覚障害の方だけでなく、多くの方が楽しめた内容だったと思います。

今回は主に視覚障害を意識しながら取り組みを構成しましたが、次回は聴覚障害の方も楽しめる内容を計画しています。様々な障がいの方を含めたすべての方が楽しめる回を継続的に実施し、より多くの人とつながりが持てる社会、障がいがあることが心理的な負担にならない社会をめざしていきたいです。

担当POより：

巫舞台さんは新潟市で公演を実施するのが今回が初めてでしたが、事業計画時から持たれていた「来場者それぞれが、それぞれの楽しみ方ができるように」という意識を、終始大切にしながら取り組まれたと感じています。

公演開催にあたり、巫舞台さんは積極的に新潟県視覚障害者福祉協会「にいがたアイサポートセンター」さんや、障害者支援経験がある舞台監督と相談しながら進められていました。体験ブースの実施時間や、音声読み取りしやすいパンフレットの作成など、関係団体とお話をしていく上で実施方法をよりよい形に変更されていた姿は、私自身もとても勉強になりました。

琵琶体験ブースでは、琵琶にふれることはもちろん、ブースを担当されている方に琵琶をはじめたきっかけや、バチや楽器について質問する姿も見受けられ、琵琶の魅力が伝わったのではないのでしょうか。

（高橋）

「唐版・風の又三郎」演劇公演



団体名

アウトサイダーアート・演劇プロジェクト



採択金額

215,000円



会場

白山公園 空中庭園3



開催日

2024年6月6日/7日/8日

出演：アウトサイダーアート・演劇プロジェクトメンバー
参加者数：332人（3回公演合計）

後援：新潟市



1 公演 2 稽古中 3 公演会場外観

あらゆる人の居場所になる

他都市で実施されていた55歳以上を対象とした劇団の公演を観劇し、中高年の表現の豊かさや生き生きとした姿を見て、いつか新潟で同様の取り組みをしたいと考えていました。

自身や周囲の方が年齢を重ね、生きがいを求めている姿や、非正規労働で働く若年層の姿、居場所がないと感じている人や自己肯定感の低い姿を見て、演劇で社会貢献ができないかと考え、居場所づくりも兼ねて始めた取り組みです。

取り組みを進める中で、当事者にとってはまだ参加の敷居が高いと思い、この公演を見てもらうことで参加を促したいと考えました。

互いの違いを受け入れる関係性をつくり、自己表現の楽しさ・生きがいを見出す

白山公園空中庭園に仮設テントを設営し、「唐版・風の又三郎」（作・唐十郎）を上演しました。キャスト・スタッフの2/3が50歳以上で、最高齢は72歳でした。

出演者は、新潟市民を中心に19名が募集によって集まり、稽古を通じて互いの違いを認識・許容・受け入れていく関係性をつくっていきました。約1年近く活動を続けましたが、誰一人脱落することなくやりきることができました。また、テントの設営や舞台監督、その他スタッフなど、多様な方々の参加により作品を作り上げました。公演実施を通じて、参加者が達成感や自己肯定感を高めることができ、自己表現の楽しさや生きがいを見出すことができたと思います。公演自体も、チケット予約が満員となり、本番を迎えることができました。

一方で、長い台本であったことから、出演者等の体力面の厳しさも感じました。次回はもう少し短い台本を選び、2年に1回のペースでテント公演は継続して実施していきたいと考えています。参加者募集を行い、発声練習などのワークショップを通して演劇の楽しさを参加者が感じながら公演につなげていきたいです。

担当POより：

多世代間交流の場になっていたことが印象的な事業でした。

この公演に関わってらっしゃる出演者・演出関係者の方々は、大学生から70代までと幅広い年代でしたが、稽古中も動き方をお互いに提案し合ったり、セリフの背景を考えたりと、前向きな会話が多く生まれていました。稽古を通してセリフや動きを覚えるだけでなく、役者同士や演出家と役者間、役者と裏方の関係性も構築されているように見受けられました。

公演本番も出演者の年齢層と同様に、多様な年代の方々が多く来場されており、この公演に関心を寄せている方の多さを感じました。

今回の取り組みは、既存の劇団による公演ではなく、出演者や運営面においても団体問わず声を掛けて実施されたことにより、日頃関係している団体・環境を超えた関係づくりのきっかけになったと思います。

（高橋）

団体助成

ろう者と聴者が一緒にインプロ（即興演劇）で遊ぶ場の創造



団体名

インプロう@新潟（実施期間中に団体を設立）



採択金額

55,000円



会場

ワークショップ
新潟市総合福祉会館/クロスパルにいがた



開催日

団体設立前 ワークショップ
2024年8月31日/11月9日/11月10日

団体設立後 定期ワークショップ
2024年12月21日/2025年1月18日/2月23日

参加者数：設立前ワークショップ 8月 32人 11月 11人
定期ワークショップ 12月 8人 1月 8人 2月 6人

[8月開催ワークショップ]

後援：NPO法人 新潟市ろうあ協会/手話サークルほほえみ会

協力：新潟市手話サークル連絡協議会



1 団体設立前ワークショップ 2・3 設立後の定期ワークショップ

ろう者と聴者が同じ立場で気軽に交流する場づくりをめざして団体を立ち上げたい

手話通訳者養成講座等を受講した際、ろう者と聴者は教える・教わるという役割が固定されていて、周囲に聴覚障害者とそれ以外の人が、同じ立場で純粋に交流を目的として集まれる場が無いことに違和感を覚え、場づくりの必要性を感じました。自身が30年来取り組んできた「インプロ（即興演劇）」は、事前に台本を準備したり覚えたりすることなく行える活動のため、気軽に参加し交流するためのツールになり得ると思え、インプロの要素を使って遊ぶ場の創造を企画しました。申請時は個人の発案ですが、交流の場を持続させていくために賛同者を募って団体を立ち上げ、取り組みを続けていくことをめざします。

体験ワークショップ第一弾・第二弾と挑戦を続けて賛同者を募り団体を設立

賛同者を得ることを目的に、まず「『インプロ（即興演劇）の要素を用いて交流する』とはどういうことか」を多くの人に知ってもらうために、夏に体験ワークショップを行おうと考えました。それに先駆けてFacebookとInstagramのアカウントを作成し、取り組みの趣旨と、日時・場所の詳細は未定ながら「手話×インプロで遊ぼう2024夏」と称したワークショップの予定を掲載し、大規模な演劇イベント「第4回新潟劇王」にチラシを600枚折り込みました。その後準備を進め、NPO法人新潟市ろうあ協会と手話サークルほほえみ会の後援、新潟市手話サークル連絡協議会の協力を得て、8月にワークショップを開催しました。告知はSNSのほか、新潟市総合福祉会館と新潟ふれあいプラザにポスター掲示とチラシ設置をお願いし、さらに新潟県アール・ブリュット・サポート・センター長のご助言を得て、新潟県聴覚障害者協会と新潟県聴覚障害者情報センターのメーリングリストで告知を依頼し、ろう者の方にも情報が届くよう尽力しました。

当日は30人を超える参加があり、手話通訳4名態勢で実施しました。取り組みの趣旨とインプロを紹介する講義を含む3時間のワークショップでしたが、おおむね好評をいただき、時間もちょうどいいという人が多数でした。しかし、負担なく継続して定期集会を開きたい新潟市総合福祉会館に利用団体登録をするための賛同者が必要人数に満たず、急遽11月に「手話×インプロで遊ぼう2024秋」を2日間にわたって開催しました。その結果、夏と秋のワークショップ両方に参加してくれた方が賛同者となってくださり、発案した代表個人と合わせて8名で「インプロう@新潟」という団体を立ち上げ、登録することができました。以降、新潟市総合福祉会館にポスターとチラシを常設し、SNSで開催日時の告知と終了後の報告を行いながら月に一回のペースで定期ワークショップを開催しています。申し込み不要なので、当日までどんなメンバーが来るのかわかりませんが、その場の雰囲気を見ながらインプロ的活動を提案し、交流しています。きこえる・きこえない、手話ができる・できないにかかわらず楽しく交流できる空間を作るべく、参加者の意見を取り入れながら挑戦を続けています。

担当POより：

1人で取り組みを始めてから、さまざまな挑戦をされ、その挑戦を次の一步に繋げて賛同者を集め、団体を立ち上げるまで常に真摯に取り組まれる姿が印象的でした。広報活動や協力依頼も労を惜しまず足を運び、直接先方とお話することで、活動の意図を理解いただき、多くの方の協力や賛同を得られたと思います。ワークショップでは、きこえる・きこえないに関わらず、参加者のみなさんが自由に表現し、楽しまれている様子がうかがえました。障がいの有無や立場を超え、参加者全員が気軽に交流できる場を継続して開くことで、他者理解が深まり、多様な人々が暮らしやすい環境が広がっていくことを期待しています。

（大浦）

資料編

令和6年度 文化芸術活動に関する支援事業 募集要領（概要）

※詳細はアーツカウンシル新潟ウェブサイト（ <https://artscouncil-niigata.jp/6458/> ）をご確認ください。

【事業の趣旨】

アーツカウンシル新潟では、より豊かな地域社会を実現するため、新潟市内で取り組まれる文化芸術活動※に対して伴走支援・助成を行っています。市内で行われる文化芸術プロジェクト（事業）や文化芸術活動に取り組んできた団体の運営をはじめ、新たに文化芸術活動に取り組む団体や個人のみなさまを支援します。

※文化芸術活動とは
文学や音楽、美術、演劇、舞踊などの「芸術」のほか、メディア芸術、伝統芸能、デザイン、工芸、生活文化、歴史文化、食文化などを含む、幅広い分野の活動（プロジェクト（事業）の実施や文化芸術団体の運営など）です。

【対象となる取り組み】

■新プロジェクトへのチャレンジ助成

初めて文化芸術活動に取り組む団体や、活動実績のある団体が新たに挑戦するプロジェクト（事業）で、特定の人や団体だけでなく、広く市民に開かれた取り組み

■テーマ別プロジェクト助成

新潟市内で実施するプロジェクト（事業）で、下記の3つのテーマのいずれかに該当する取り組み

①地域文化の魅力を創造・発信する取り組み

文化財や身近にある地域の文化的遺産など、有形無形を問わず、新潟市内に固有の価値ある文化資源に着目し、それらの活用に取り組み、次世代につないでいくためのプロジェクト

②文化芸術で子ども・青少年を育成する取り組み

未来を担う子どもや青少年が文化芸術に触れることで、自身や他者の個性を見つめ直し、豊かな感性や創造性、コミュニケーション能力を育む環境づくりをめざすプロジェクト

③文化芸術と他分野とが連携する取り組み

文化芸術基本法に示された「観光、街づくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野における施策との有機的な連携」をめざし、関連分野と連携して文化芸術の多様な可能性を活かした創造に挑戦するプロジェクト

■団体助成

団体が抱えている課題や新たな枠組みへのチャレンジに対する取り組み、個人による新たな文化芸術団体の設立など

【助成の対象者】

主に新潟市内で活動するグループや団体もしくは個人※で、下記の項目すべてを満たし、事業の遂行が可能な者。

- 団体の構成員のうち半数が、市内の在住者、在勤者、在学者のいずれかであり、そのうち少なくとも1名が在住者であること（個人の場合は、申請者本人が在住者であること）
- 団体の構成員のうち在住者（個人の場合は申請者本人）が、市税を滞納していないこと
- 事業関係者に暴力団等の関係者を有していないこと

※個人が申請できるのは、「団体助成」において新たに団体を設立する場合に限ります。採択された場合は、原則としてこの支援事業における活動の中で団体を設立してください。

【得られる支援】

■助成金による支援

助成金の額 新プロジェクトへのチャレンジ助成/団体助成 上限20万円
テーマ別プロジェクト助成 上限50万円
※5千円単位（端数切捨）
助成率 対象となる経費の 1年目＝2/3以内 2年目＝1/2以内 3年目＝1/3以内

■申請受付期間・助成対象期間

第1回 受付期間：2024年2月1日（木）～2024年2月29日（木）
助成対象期間：2024年4月1日（月）～2025年2月28日（金）
第2回 受付期間：2024年7月1日（月）～2024年7月31日（水）
助成対象期間：2024年9月1日（日）～2025年2月28日（金）

■その他の支援

申請団体のみなさまとお話を重ね、よりよい事業展開となるよう「伴走支援」を実施します。

【審査評価項目】

■新プロジェクトへのチャレンジ助成・テーマ別プロジェクト助成

評価項目	審 査 の 観 点
方向性	・事業の趣旨、目的、動機が助成事業のめざす「より豊かな地域社会の実現」に資するものか。 ・市民や他団体、地域に好影響をもたらす事業となっているか。
計画性	・事業プラン、スケジュール、実施体制、広報戦略などが具体的かつ適切に計画されているか。 ・資金の確保や使途の妥当性など、現実的な収支予算計画となっているか。
創造性	・固有の特色を活かした個性的な事業となっているか。 ・他分野と連携して相乗効果を生み出すような、新たな可能性が感じられる企画となっているか。（テーマ別のみ）
波及性	・事業の成果が、広く市民や他団体に共有することができるようになっているか。 ・市民や他団体が文化芸術活動を始めるきっかけとなるような取り組みとなっているか。
継続性・発展性	・助成金に頼らない継続的な活動が見込めるか。（テーマ別のみ） ・助成事業を通して、将来的に更なる活動の広がりが期待できるか。

■団体助成

評価項目	審 査 の 観 点
方向性	・取り組みの趣旨、目的、動機が助成事業のめざす「より豊かな地域社会の実現」に資するものか。 ・市民や他団体、地域に好影響をもたらす事業となっているか。
計画性	・事業プラン、スケジュール、実施体制、資金の確保、広報戦略などが具体的かつ適切に計画されているか。 ・資金の確保や使途の妥当性など、現実的な収支予算計画となっているか。
社会性	・団体の設置目的や取り組み目標が社会貢献に適合するものか。
波及性	・取り組みの成果が、広く市民や他団体に共有することができるようになっているか。 ・市民や他団体が文化芸術活動を始めるきっかけとなるような取り組みとなっているか。
継続性・発展性	・取り組みにより、継続した団体運営に繋がっていくことが期待できるか。 ・取り組みを通して、将来的に更なる活動の広がりが期待できるか。

令和6年度文化芸術活動に関する支援事業 取り組みレポート

発行日 2025年10月

編集 大浦 亜子（アーツカウンシル新潟 プログラムオフィサー）
朴 建雄（アーツカウンシル新潟 プログラムオフィサー）
高橋 郁乃（アーツカウンシル新潟 チーフプログラムオフィサー）

写真 採択団体提供（取り組みレポート部分）

発行 アーツカウンシル新潟
公益財団法人 新潟市芸術文化振興財団
〒951-8126 新潟市中央区学校町通1番町12番地 市役所前ビル7階
電話：025-378-4690
FAX：025-378-4663
e-Mail：artscouncil@niigata.email.ne.jp
H P：https://artscouncil-niigata.jp/

※掲載内容の参照・転載の際には上記までご一報ください。